

私が、えひめ地域政策研究センター（以下「センター」）を離れて、半年以上が過ぎた。センターでは、愛媛県の地域づくりを長年リードしてきた「えひめ地域づくり研究会」（以下『研究会』）の会員や県外の多くの地域づくり活動家の方たちと接する機会を得た。また、日本の各地で、驚くほど志の高い人たちにも出会った。

それまでの長年の公務員生活で硬直しかかっていた私の脳細胞に、まだ彼らの言葉を受け入れられる柔軟性が、わずかながらも残っていたことに感謝したい。

そこでのいくつかの出会いには、遠い日に読んだ「南洋の酋長ツイアビの演説集『パラギ』」にも似て、自分の考え、生き方の根本に迫ってくるものだった。

* * *

「まちづくりは、どこの部署にいても、やれるんだよ」

講演のあと、空港へお送りする車の中で、ある地域づくりの大家から、そう言われた。私が、次の異動でセンターを離れることに話が及んだ時のことだ。

重い言葉だと思う。

職業柄、公共の事業に携わっていると、それだけで、なんとなく、地域づくりに貢献しているかのような勘違いをしてしまいがちだが、実際は、貢献どころか、返って阻害してしまうことさえある。事実、ま

研究員卒業レポート

遠きかがり火

客員研究員 井石 憲雄

ちづくりの歴史を振り返ると、行政が批判の対象となったことも多い。

何が「まちづくり」なのか。それぞれの行政マンが、自分の中で問い続けなければならぬ課題だと思う。

真に目指すべき地点はどこなのか。それを見極め、与えられた環境の中で目標に向かって歩んでいくことは、たやすいことではない。本当に多くの情熱と努力、時には勇気が必要だと感じている。

* * *

こんなこともあった。

四国のある県に住むS氏は、ある日、新聞で、関西地方から「歩き遍路」に来た方の投書を目にした。その投書は、遍路道の周辺に大量のゴミが不法投棄されていることを嘆いたものだった。

S氏は、この事実を知って、四国に住む者として大変恥ずかしく思い、投書で指摘された場所の中に、自分の住むA市が含まれていたことから、まず、A市の行政当局にゴミの撤去を要請した。しかし、A市は、私有地のゴミの撤去に公費を使うことはできないという理由から、この要請を受け入れなかった。

この対応に激しく怒ったS氏は、その後、獅子奮迅の活躍で市民ボランティアをまとめあげ、建設業協会からは重機作業の協力を取り付け、最終的には最小限



えひめ地域づくり研究会議 20周年記念シンポジウム (平成19年2月10日 内子座)

の行政の協力も得て、当初から数えればかなりの期間を要しはしたが、ついに膨大な量のゴミの撤去を成し遂げた。

この模様は、全国ネットのテレビ番組でも大きく取り上げられたので、ご覧になった方も多いのではないかとと思う。

一方、このS氏の成果に触発された方たちが、B市に同様の要請を行ったところ、B市の責任者は非常に理解のある方で、休日に市職員のボランティアを動員し、瞬間間に大量のゴミを一掃してしまつた。

興味深い行政の2つの対応パターンだが、この話には、まだ続きがある。

その後、スムーズに事が運んだB市ではなく、皮肉にもA市で、これを契機に住民のネットワークが生まれた。彼らは、その後も自分の住む町の環境に気を配り、より良い町にするための努力を続けている。もし、再び遍路道がゴミで埋まるようなことがあれば、きつと、また立ち上がってくれるにちがいない。

この一連の出来事は、自分の中に、いくつかの教訓と反省を残すことになった。

* * *
自分の住むまちを「遊び場」「キャンパス」として思いをぶつけ、人生を楽しんでいる多くの人たちに出会った。

現場を知る／自分のフィールドを持つ／実践／持続するには無理をしないこと／経営感覚なき行政職員／地域資源を磨く／3年ごとの異動が生む素人行政

／地域づくりは人づくり／地域コミュニティ／民度を高める／楽しくなくつちや／人の心に火を付ける／コップの内磨き・外磨き／モチベーションの補給／システムとして組み込む／善循環運動／小乗と大乘／人・地域↓□↓幸せ／…
当時の取材メモをめくると、いろんなキーワードが並んでいる。そして、その言葉の向こうに、お世話になった人たちの顔が浮かぶ。

私が各地の「まちづくり人」から教えられたことは多く、ここで、その全てに触れることはできないが、これまで「まちづくり」の目的だと思っていた数々の施策や事業が、実は単なる手段、きつかけに過ぎないということに気づかせてもらったことも、そのひとつだろう。

今は、まだ、自分の足元のぬかるみを踏み越えることで精一杯の私ではあるが、「研究会議」には、易きに付こうとする私の甘えを戒め、真に目指すべき地平を遥か彼方で照らし出す「遠きかがり火」であり続けてほしいと願っている。

* * *
センター在職中は、たくさんの方のお世話になりました。本当に、ありがとうございます。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。